

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-27

なし

(発行年 / Year)

1910

加

訂正
分

第三節 無効及ヒ取消

(理由) 本節ハ凡テ法律行為ノ無効ナル場合及ヒ取消シ得ヘキ場合ニ付キ其無効又ハ取消ノ結果ヲ定メ且此ノ如キ行為ヲ有效ト爲シ得ルヤ否ヤ及ヒ其方法ノ如何ニ關シテ規定スルモノナリ實際如何ナル行為ハ果シテ無効又ハ取消シ得ヘキモノナルヤハ之ヲ各場合ノ規定ニ譲ル

既成法典ニハ本節ニ規定スルカ知キコトヲ主トシテ財產權義務銷除ノ部ニ於テ規定セリト雖モ無効及ヒ取消ハ汎ク一般ノ法律行為ニ關スルモノニシテ決シテ義務ノミニ限ルニアラス且既成法典ニ銷除ト曰ヘルハ單ニ取消シ得ヘキコトノミニシテ決シテ其中ニ無効ヲ含マサルカ故ニ本條ハ之ヲ採ラス蓋シ民法獨逸民法草案等ニ倣ヒ愛ニ無効及ヒ取消ノ一節ヲ設ケテ一般ニ規定スルコトトセリ

第一百十九條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第五百五十八條ト大體ノ趣意ヲ同レク然レトモ本條ハ既成法典ト異ナリテ自然義務ノ規定ヲ設ケサルカ故ニ追認ニ關スルコトハ本條但書ニ於テ之ヲ定メタルナリ當事者追認ヲ爲シタルトキハ新ナル行為ヲ爲シタルモノト看做ストセシハ舊行為カ有效ト爲ルニ非ザルコトヲ明カニシ且其行為ハ追認ノ時ヨリ成立スルモノトシ追認ノ效力ヲ既往ニ遡ルモノトセザルコトヲ示シカ爲メナリ

第一百二十條

(理由) 本條ハ既成法典人事編第七十二條第二項ト財產編第三百十九條第一項トヲ併合シタルモノナ

リ其財産編第三百十九條第二項ヲ除キタルハ本案ニ於テハ刑事禁治産ナルモノヲ認メサルコトハ既ニ能力ノ節ノ初ニ於テ述ヘタルカ如クナレハナリ(第一 章第二節理由)

財産編第三百十八條ヲ削除シタルハ言フヲ待タサルコトナルヲ以テナリ

第二百一十二條

(理由) 本條ハ既成法典財産編第五百五十二條ト其趣意ヲ同フレ字句ニ於テ左ノ如キ修正ヲ施コセ

一 原文第一項ハ單ニ其行爲ニ因リテ既ニ受取リタル物ヲ返還スルハコトニ付テハノ規定セリト雖モ之ヲ改メ汎ク取消シタル行爲ハ初ヨリ無効ナリシモノト看做シ而シテ受取リタル物ヲ返還スルカ如キハ其當然ノ一結果トスルヲ至當ナリト信スルカ故ニ獨白民法草案ニ做セ本案ノ如ク修正セリ

二 原文ニハ成年者ト曰モ凡テノ能力者ヲ包含セシメテ無能力者ニ對セシメントセルコトハ原案ノ說明ニ據リテモ明カナル所ナレト成年者ニシテ無能力者モアルヲ以テ本案ノ如ク修正セリ

三 原文ニハ無能力者ハ銷除ヲ得タル行爲ニ因リテ仍ホ未だ現ニ已レテ利益ナル物ニミテ返還スル責ニ任スト曰ヘリ然レトモ無能力者ハ仍ホ已レテ利益ナル物ハ有セサルモノニ因リテ得タル利益ノ仍ホ存スルトキハ之ヲ償還セシムヘキコトトセシラハ無能力者ニ不當ノ利得ヲ得セシムルコトトナルヲ以テ本案ハ此點ニ於テ修正ヲ加ヘタリ

四 原文第三項ハ言フヲ待タサルコトナルカ故ニ之ヲ削除セリ

財産編第五百五十三條ノ規定ハ本條ノ當然ノ結果ニシテ唯之ニ登記ノ原則ヲ適用シタルニ過キストニ之ヲ拘タルノ必要ナレト信スルカ故ニ之ヲ削除セリ

第二百一十一條

(理由) 本條 財産編第三百二十條第五百五十四條及第五百五十七條ノ規定ヲ觀括シタルモノナリ追認ニハ明示ノモノト默示ノモノトアリ既成法典ニハ特定ノ承繼人ノ權利ヲ害スルコトヲ得スト

レト本案ニ於テハ當事者及ヒ之ト同一人ト看做スヘキ者ヲ除ク外皆之ヲ第二者ト稱スルニヨリ本條ニ於テモ亦特定ノ承繼人ト曰ハスルヲ汎ク第二者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ストセリ

財産編第五百五十五條ヲ削除シタルハ追認ニ證書ヲ必要トスルノ理由ナク又證書ニ記載スヘキ事項ヲ法文ニ掲タルノ必要モナレト信シタレハナリ

第二百一十條

(理由) 既成法典ニ於テハ取消ハ之ヲ裁判所ニ請求スルヲ本則トセルカ如クト雖モ是レ必要ナラザル手續ト信スレヲ以テ單ニ意思表示ノミヲ以テ足レリト相手方ノ確定セル場合ニ於テハ之ニ對シテ其意思表示ヲ爲スヘキモノトセリ

第二百九條

(理由) 本條ハ財産編第五百五十四條ノ規定ト略ホ其趣意ヲ同クス唯既成法典ハ錯誤ヲモ取消ノ原因トストレト本案ハ既ニ意思表示ノ節ニ於テ錯誤ヲ以テ取消ノ原因トセサリレカ故ニ本條ノ取消ノ原因

ノ中ニハ錯誤ヲ含マサルコト明カナリ

原因ノ止ミタル後ト曰ハスレテ其情況ノ止ミタル後トセシハ例ハ詐欺ハ止ムモ詐欺セラレタル情況ノ止マサル中ニ追認ヲ爲スモ其效ナキコトヲ明カニセツト欲シタレハナリ

第二百二十五條

(理由) 本條ハ財産編第五百五十六條ニ小修正ヲ加ヘタルニ其修正ノ重ナルモノハ原文ニ於テハ異議ヲ留ムルコトヲ獨リ強制執行ノ場合ニ關シテノミ言ヒオレト他ノ場合ニ於テモ亦異議ヲ留ムルモノトハ追認ヲ爲シタルモノト看做ササルハ同條ノ精神ニシテ草案ノ說明中ニモ明言シタル所ナリヨリ本案ニ於テハ此文字ヲ冒頭ニ置キ凡テノ場合ニ適用スルモノナルコトヲ明カニ示セリ

第二百二十六條

(理由) 本條ハ人事編第七十三條及ヒ財産編第五百四十四條乃至第五百四十六條ヲ併合シタルモノナリ取消權ノ時效ヲ定メサルトキハ多クノ權利ヲ永ク不歸ニ情況ニ置キ公私ノ利益ヲ害スルヲ以テ本條ヲ置クノ必要アルナリ本條ニ於テ既成法典ヲ補正セシ點左ノ如シ
一人事編第七十三條ハ夫ニ屬スル權利ハ其歸除シ得ヘキ行為ヲ知リタル日ヨリ五年ノ時効ニ因リ又ハ婚姻ノ解消ニ因リテ消滅ストセリ抑モ妻ヲ無能力トスル法律ノ精神ハ之ニ因リテ夫權ヲ保護シ以テ間接ニ一家ノ利益ヲ保護スルニアリ然レニ妻ハ婚姻解消ノ後五年間取消權ヲ行使シ得ヘキニ夫ハ其行為ヲ知りタル日ヨリ五年ノ後又ハ婚姻ノ解消ニ因リテ其取消權ヲ失フモノトスルニ一

家ノ利益ヲ保護スル法律ノ精神ニ照シテ剛カ權權ヲ得サルモノノ如ク蓋シ妻ニ婚姻解消ノ後五六年間取消權アリトスル所以ハ若シ妻ニシテ婚姻ノ繼續中ニ夫ノ許可ヲ受ケズレテ爲シタル行為ヲ取消サントシ之カ爲メニ或ハ訴訟ヲ起スノ必要生シ訴訟ヲ起スニ付キ夫ノ許可ヲ得ントシ勢ヒ前ノ共舉ヲモ告白セサルヘカラサルニ至リ爲メニ夫ノ感情ヲ害レテ一家ノ平和ヲ傷ルノ虞アルカ故ニ妻ハ忍ビテ其行為ヲ取消ヲ爲サルコトアルヘキヲ以テ妻ハ婚姻ノ繼續中ニ其取消權ヲ行ハサルモ決シテ之ヲ失フコトナシトセルナリ果シテ然ラハ夫ニモ亦此ヲセサルヘカラス何トナラハ妻ヨリ夫ノ許可ヲ受ケズレテ本案第十四條ノ如キ行為ヲ爲シタルトキ夫之ヲ知りテ婚姻繼續中ニ之ヲ取消サントスルトキハ爲メニ妻ノ感情ヲ害レテ一家ノ平和ヲ傷ルノ虞ナレトセザレハナリ故ニ妻ニ婚姻解消後五六年間取消權ヲ與フルモノトセハ宜シク夫ニモ亦之ヲ與フヘキナリ
本案ハ夫妻間ニ區別ヲ設ケス一般ニ取消權ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル日ヨリ五年ヲ經過スルトキハ時効ニ罹ルモノトセリ

既成法典ニ於テ婚姻ノ解消ト同時ニ夫ニ其取消權ヲ失ハシムルニ至リテハ頗ル不當ノ規定ト言フヘシ若シ此ノ如クスルトキハ婚姻ノ將ニ解消セントスルニ當リ妻ハ夫ニ秘シテ種々ノ行為ヲ爲シ婚姻ノ解消ノ時ニテ巧ニ之ヲ秘スルニ於テハ後日ニ至リテ夫之ヲ知ラセモ復如何トモスルヲ得サラン是レ夫權ヲ保護スルノ精神ニ協ハス

二本條第二項ハ明文ナクモ解釋上正ニ然ルヘキコトナレドモ明言スルノ安全ナルニ如カスト信セ

シテ以テ獨逸民法草案ニ做ラテ之ヲ掲ケタリ
 財產編第五百五十九條ヲ削除シタルハ算數氏名日附場所ノ錯誤ト雖モ權利ニ影響ヲ及ボスコト多
 レ此場合ニハ其權利ニ就テ訂正ヲ許ス場合ニ非ナレハ算數氏名等ノ錯誤ニ付テモ亦訂正ヲ許スヘキ
 ニ非ラス又尙モ權利ニ影響ヲ及ボササル場合ニ於テハ特ニカ、ル錯誤ノミニ訂正ヲ許スコトヲ要セ
 スト信シタレハナリ

同編第五百四十五條第四項ノ如キ文意ヲ省キタルハ苟モ本條ノ規定ニ於テ時効ト稱スル以上ハ之ニ
 時効ノ適用ヲ適用スヘキハ當然ニシテ言フヲ待タサルヲ以テナリ

第四節 條件及ヒ期限

(理由) 本節ハ法律行為ノ附帶事項タル條件及ヒ期限ニ關スル規定ヲ掲ケルモノニシテ既成法典第四百
 百三條乃至第四百二十六條ノ規定ニ相當ス面シテ其第四百二十一條以下ノ規定ハ契約解除ノ部ニ屬
 スヘキモノナレハ茲ニ之ヲ省ケリ又既成法典ハ本節ノ規定ヲ財產編第二章義務ノ效力ニ關ス
 ル部分ニ掲ケト雖モ本案ハ之ヲ總則中ニ掲ケル所以ノ條件及ヒ期限ハ總テノ法律行為ニ附帶シレム
 ルコトヲ得ヘキ事項ニシテ之ヲ附レ得サルハ法律行為ノ特別ノ性質ニ因ル例外ナレハナリ其他條件
 及ヒ期限ノ二項目ヲ合レテ本節ニ規定シタルハ條件ノ法律行為ノ效力ニ關ル期限ハ法律行為ノ存在
 ニ關シ共ニ法律行為ノ附帶事項トシテ之ニ關スル規定ハ互ニ相類似シ期限ニ付テハ殆シキ條件ノ規
 定ヲ準用スルコトヲ得諸國ノ法典モ多ク此例ニ依レハナリ

本節ニ法律上ノ條件ヲ掲ケサルハ本節ハ法律行為ニ關スル規定ナレハ法律行為ニ本ヲカサル法律上
 ノ條件ヲ此ニ規定スルハ其當ヲ得ナリ又既成法典ハ第四百六條第四百二十一條等ニ於テ意思
 期限ナルモノヲ認ムト雖モ意思期限ハ裁判所ノ定ムル所ニシテ當事者之ヲ動かスコトヲ得サルモノ
 ナレハ即チ契約ノ自由ヲ濫リニ束縛スルモノニシテ其必要ナキモノナラス當事者カ期限ヲ定メテ取
 引ヲ爲シタルニ拘ラス裁判所カ意思期限ヲ與ヘ之レカ爲メニ擇定ル期限ニ從ヒ取引ヲ實行スルコト
 ヲ得サラシムルニ於テハ取引ノ確實ヲ害スルコト少カラス且既成法典第四百六條ニ依レバ債權者
 ハ確實ナル損害ヲ受クルニ非ナレハ裁判所ハ債權者ニ意思期限ヲ與フルコトヲ得ル規定ニ雖モ確